

10月21日 県民との意見交換会（松阪会場）概要

【新博物館の性格や役割】

四日市、桑名、松阪といった各市町の博物館があり、県の博物館はネットワークを充実させる役割がある。

もしつくとすれば、三重の特性を活かした他の県にないユニークな博物館を作るべき。他の博物館と連携して遠くに住んでいる人も利用しやすい博物館とすべきである。

一括して文化振興といっているが、内容の分野をどのように考えているのか。

文学については、どこで考えていくのか。博物館をつくるといっても一括して大きなものを建てるのか。分野別につくっていくのか、説明ではわからない。

例えば資料といっても蓄積されたものもあるが、人がつくった資料もある。三重の作家について資料もあり、収集に悩んでいる。地域の多様性もあり、そうした分野をどう考えるか。

すべてを入れるのは財政的にも規模的にも無理と言うことはわかる。しかし、将来的に展望を持つのか、これだけしかできないので、これだけですと言われるのかによって違う。例えば、文学が小さなコーナーであって、充実して、利用度が高くなれば、将来、独立してどこかに建てるということもできると思う。10年、15年先でできるという展望がもてるものとしてもらいたい。

県民には総合文化センターや生涯学習センターと重なるような部分については理解されなれないと思うので、そこにはない特色をもったものにしてもらいたい。

研究活動を発表したいという場、またそれを受けたい、知りたいという県民の方々の「県民の教室」としたら、開けた博物館となるのではないか。

移動展示のように、ここへいらっしゃいではなく、ここに来ましたのでご覧くださいというのも大切である。

総合の中身が分からない。林業、水産、農業のコーナー、医療、薬などの分野もあるのでこれらをどう精選していくか。ここへくれば三重の全てがわかる、全国的なネットワークもある、ここへ行けば調べられるという壮大な構想にしてもらいたい。

県庁内の各分野の資料展示について、意見聴取もしてもらいたい。

一度つくれば、50年は使う。他にないいいものを作ってもらいたい。

県立博物館のサポートスタッフとして移動展示の展示案内のお手伝いをした時、ミエゾウの展示をみて子ども達の目つきが違った。今の高校生も話しかけると興味を持ってくれる。こうした子どもの教育や、子どもを育てるために歴史文化を後世に残すことに博物館の機能、役割がある。

コラボレーションについても整理してかかれているので、今までの点と線から面的な博物館になると期待している。

【資料収集について】

鉱物収集を例にとると、収集者が亡くなって収集した資料が散逸してしまう恐れがある。地域の学校や郷土に埋もれている資料を収集、データベース化していただける博物館としてもらいたい。

収集していた資料についても、その人が亡くなると散逸する。いかに保持・保全するかというシステムを入れてもらいたい。

最近の若い人は自分の地域の字の名前も知らない。「大字総図」の縮小版を県で作って博物館で備えてもらいたい。里山保全にも役立つと思う。
区有文書について、散逸しないよう目録だけでも県(博物館)でつくってもらいたい。

【現博物館について】

全く新しい博物館となるのか、リニューアルか。現博物館は昭和の遺産であるので、現博物館の外観だけでも残すように工夫してもらえないか。

【博物館整備の予算に対する質問】

新しい場所につくられるとのことだが、予算がどれぐらいかかるのか。